

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

広島県 北広島町

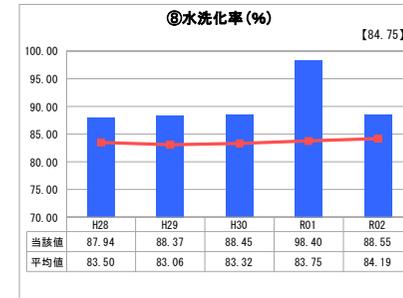
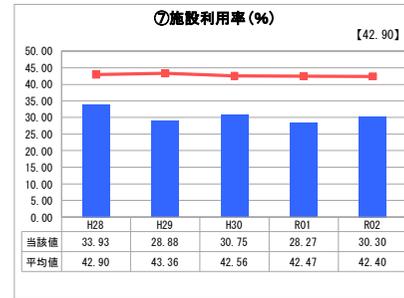
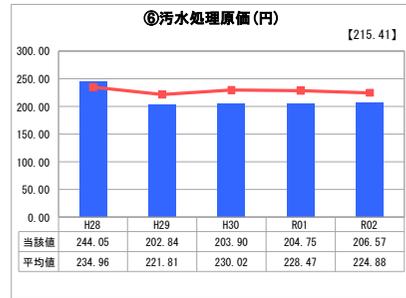
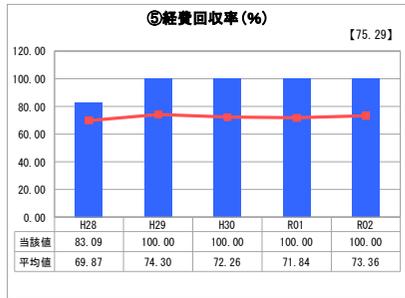
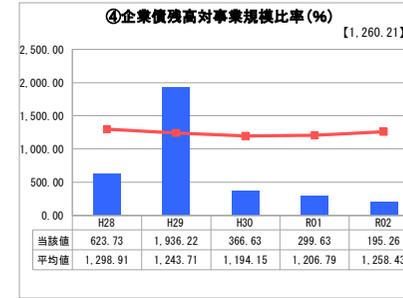
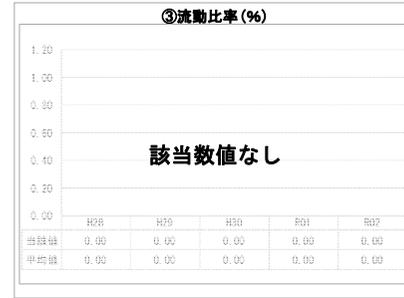
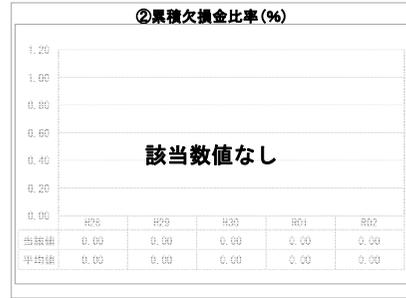
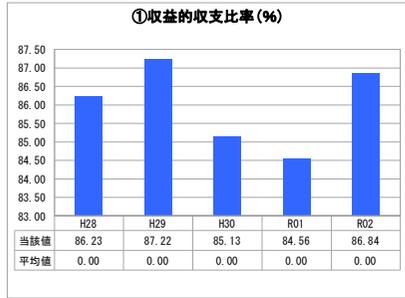
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	26.69	65.38	3,690

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,244	646.20	28.23
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,823	2.99	1,613.04

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は100%を下回っており、単年度収支は赤字である。総収益は直近5年間で、最高値を示しているものの、地方債償還金が増加したことから当該比率はあまり上昇していない。引き続き、単年度収支赤字縮減に向けて総費用削減等の経営改善に取り組んでいく必要がある。

④企業債残高対事業規模比率のH29当該値は1,936.22%となっているが、正しくは366.09%である。企業債残高対事業規模比率は地方債現在高とともに順調に減少している。類似団体と比較してみても、平均を大きく下回る結果となっているが、これは地方債現在高のうち一般会計負担額が占める割合が大きいためである。

⑤経費回収率は、100%を維持している。引き続き、汚水処理に係る費用の削減など単独経営に近づくよう取り組みを進めていく。

⑥汚水処理原価は前年度より増加している。原因として、汚水処理費は減少しているものの、年間有収水量が減ったことが挙げられる。類似団体と比較してやや低い数値となっているが、施設の老朽化や人口減少による有収水量の減少を踏まえ、更に効率的な汚水処理を実施していく必要がある。

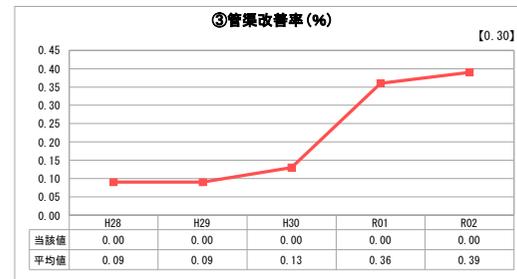
⑦施設利用率は、ほぼ横ばいで推移している。類似団体と比較しても、平均を下回っており、施設の効率性の面では、適正な施設規模とは言えない数値であり、施設運営の効率化等検討していく必要がある。

⑧水洗化率は、類似団体と比較しても、平均を上回っており、引き続き水洗化率の向上に努めていく。

### 2. 老朽化の状況について

③現況では、法定耐用年数を超える管路は出ていないが、施設の老朽化が進み不明水等の増加に繋がることが懸念される。今後は事業費の平準化に向けた対策をとりながら、適正な時期に適正な管路更新を実施する計画的な資産管理を行う必要がある。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

本町の特定環境保全公共下水道事業は、前年度と比較するとやや回復傾向であるものの、総収益における繰入金割合が高いことなどの問題点がある。また、単年度赤字収支という課題もある。令和6年度からの法適を見据え、料金改定など今後も更なる健全な経営を図っていくため、将来を見越した計画的な経営改善を行うことが急務である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。